

2024年度活動概要

言語政策研究会

2000年発足の本研究会の特徴は以下の通りです。

1. コロナ禍や生成 AI など教育方針や学習形態がより複雑で多様化している昨今、言語教育の現状や問題点を個人・集団・社会・国家の相互作用として多面的に捉えていく。また、既成概念からの脱却や再構築を試みながらその先に見える言語教育の未来図も示唆していく。
2. 会員は異なる専門分野を持つ
英語教育、日本語教育、ろう教育、第二外国語・文化研究（スペイン語、中国語、韓国語、ドイツ語等）
3. 研究対象言語が多岐にわたる
英語学習、留学、教育施策、教師教育、少数言語消滅・維持—日本、インド、カナダ、豪州、米国、シンガポール、パラオ、台湾、ドイツ、スペイン、機械翻訳等

2024年度も JACET 言語政策研究会では、多様なテーマを扱い、年間を通して実践と理論の往還を図った。4月（オンライン）は押味貴之氏（国際医療福祉大学）が「医学部での CLIL の実践」を報告し、専門知識と言語教育の統合的授業設計の課題と成果を共有しました。5、7、9、11、2025.1月（オンライン）には、Quakenbush & Simons 編『Language and Identity in a Multilingual, Migrating World』の輪読を通じ、言語アイデンティティと移動・多言語状況の交差点を理論的に検討しました。

6月29日には金沢星稜大学を会場に第5回年次特別研究会を開催し、日野信行氏（大阪大学名誉教授）による基調講演「『国際英語』教育の課題と展望」や、佐々木倫子氏・柴田美紀氏の政策提言、杉野俊子氏による特別講演を通じて、言語政策研究のこれまでとこれからを多面的に論じました。また、2025年1月（オンライン）には齋藤浩一・田中藍渚両氏が研究報告を行い、移動・教育現場における言語の意味を具体的に掘り下げました。

3月8日の早稲田大学におけるワークショップでは、新田哲夫氏（金沢大学）が南琉球方言の旋律とリズムに関する講義を行い、森川智成氏（中央大学）は言語景観に見られる「James」という店名が英語教材になり得る視点を提示した。フォーラム「言語と経済」では飯野公一、佐々木倫子、野沢恵美子の各氏が、地域経済と英語政策、言語資本の関係を論じ、田中富士美が司会を務めました。

2024年度も他の研究会との共催にも積極的に取り組み、広報にも務めました

- ① 8/26 JACET 第63回 JACET 国際大会、野沢恵美子（中央大学）、波多野一真

(創価大学) ポスター発表

- ② 12/2 JAAL in JACET、柿原武史（関西学院大学、現・京都大学）、三村千恵子（宇都宮大学）ポスター発表

本研究会の有志によって、言語・教育のパターンを多面的かつ力学的に見ていく『言語教育のマルチダイナミクス：多様な学びの方向性』のテーマで研究を深めていったものが研究成果として結実しましたが（2024年3月31日、明石書店）、2025年度は「言語と経済」にフォーカスし、出版に向けて研究企画を進めます。